

◎学力について

問題A：主に「知識」に関する問題

問題B：主に「活用」に関する問題

1, 平成29年度「全国学力状況調査」の結果

○国語B問題では、全国平均とほぼ同じ。

- ・全学年共通の家庭学習として、毎日音読に取り組んだ成果といえる。
国語科読むことを中心とした授業改善により、読む力がつき、問題文や問いの文を正確に理解する力がついてきたと考える。その結果、求められている解答を書くことができるようになってきたと考えられる。その反面、問題文が正確に読み取れず、解答できない児童もいる。

○国語A、算数Aの問題で平均得点率が全国平均に近づいている。

- ・学習規律の定着により、学習に取り組む姿勢が身に付いたことが大きい。
- ・少人数指導とTTによる個別指導で、様々な学習課題に、全員が取り組めるようになったことの成果といえる。個別指導では、休み時間や、放課後学習の時間も活用して、担任やスクールサポートと教員が最後まで子どもの学習に寄り添うことで、基礎学力をつけている。

○算数B（活用）の問題では、全国平均を下回っている。

- ・「数と計算」においては全国平均とほぼ同じだが、「量と測定」「図形」「数量関係」の理解が不足していた。

2, 結果から見えた課題

○結果から見えてきた課題

- ・国語B問題では得点分布が二つに分かれている。
高得点をとる児童と、そうでない児童の二極化の傾向がややみられる。
- ・算数B問題では、得点率が低い。
家庭学習では「一人で取り組めるもの」を課題としており、基礎的な練習問題には対応できるが、応用力がつかない。学校での学習も基礎基本の定着を優先にしているため、発展的で応用的な学習課題に取り組む時間が少ない。

3, 自校の取り組みの成果

(国語)

本校の研究主題は「読む力を高める読書活動の在り方」である。朝学習の時間には毎日読書を行っている。また、1年生～4年生は月1回の読み聞かせも行っている。そして常に本を手にとることができるように、全校児童に「読書バッグ」を購入した。これは、図書室で借りた本が5～6冊くらい入るサイズで、児童机の脇に常に掛けておく。休み時間や給食の配膳時、ちょっとした隙間の時間を見計らって子ども達は読書をする。子どもたちは本にふれ合う機会が増える度に、読書への関心が高まっていった。

(算数)

毎週火曜の6時間目に「西っ子チャレンジ」と称して、計算問題の基礎・基本問題に全校一斉に取り組んでいる。学力差の大きい本校の実情を踏まえて、レベルを数段階に分けている。学習プリントは全学年が取り出しやすいように、校舎の中央の通路の棚に収容している。いくつかのレベルの中から本人が選択し45分間でできるだけ多くの枚数をこなす。児童達は、自分の進度がわかるようにチャレンジカードに取り組んだ枚数分のシールを貼り、意欲を高めている。